



show 出力のフィルタリングと保存

- [show コマンド出力の保存とフィルタリング \(2 ページ\)](#)

show コマンド出力の保存とフィルタリング

出力をテキスト ファイルにリダイレクトすると、**show** コマンドの出力を保存できます。出力をフィルタリング コマンドにパイピングすると、**show** コマンドの出力をフィルタリングできます。

出力の保存とフィルタリングはすべての **show** コマンドで使用できますが、大量のテキストを生成するコマンドを処理する場合に最も役立ちます。たとえば、**show configuration** コマンドを使用して、設定のすべてまたは一部を表示できます。設定の出力をコピーすると、設定をバックアップおよび復元できます。



(注) **show** コマンドではシークレット (パスワードフィールド) が表示されないため、新しいデバイスに設定を貼り付ける場合は、実際のパスワードを含めるように **show** 出力を変更する必要があります。

show コマンド出力のフィルタリング

show コマンドの出力をフィルタリングするには、次のサブコマンドを使用します。次の構文の説明で、**show** コマンドの後の最初の縦棒 | はパイプ文字であり、コマンドに含まれ、構文の説明の一部ではありません。フィルタリング オプションはコマンドの最初の | 文字の後に入力します。

```
show command | {begin expression | count | cut expression | egrep expression | end
expression | exclude expression | grep expression | head | include expression | last | less | no-more | sort
expression | tr expression | uniq expression | wc}
```

フィルタリング オプション

フィルタリング サブコマンドは次のとおりです。

- **begin** : 指定されたパターンを含む最初の行を検索し、その行と後続のすべての行を表示します。
- **count** : 行数をカウントします。
- **cut** : 各行の一部分を削除 (「カット」) します。
- **egrep** : 拡張タイプのパターンと一致する行のみを表示します。
- **end** : パターンと一致する行で終了します。
- **exclude** : パターンと一致するすべての行を除外し、その他のすべての行を表示します。
- **grep** : パターンと一致する行のみを表示します。
- **head** : 最初の行を表示します。

- **include** : パターンと一致する行のみを表示します。
- **last** : 最後の行を表示します。
- **less** : ページングのフィルタです。
- **no-more** : コマンド出力の改ページをオフにします。
- **sort** : 行をソートします (ストリーム ソーター)。
- **tr** : 文字を変換、スクイーズ、および削除します。
- **uniq** : 連続した同一行の 1 つを除くすべてを破棄します。
- **wc** : 行、単語、および文字の数を表示します。

expression

通常、式、つまりパターンは単純なテキスト文字列です。式を一重引用符または二重引用符で囲まないでください。式の一部として表示されます。また、末尾のスペースは式に含まれます。



- (注) 次のサブコマンドのいくつかには、フィルタリングを詳細に制御できる追加オプションがあります。たとえば、**show configuration | head** および **show configuration | last** と指定すると、**lines** キーワードを使用して表示される行数を変更できます。デフォルトは 10 です。さらに、**show configuration | sort** と指定すると、出力から重複行を削除するためのオプション **-u** を追加できます。(このオプションの詳細な説明は本ドキュメントの対象外です。さまざまなコマンドについては、FXOS のヘルプ出力を参照してください。詳細については、該当する Linux のヘルプを参照してください。)

例

次の例では、システム イベント ログ内の現在の行数を確認する方法を示します。

```
FP9300-A# show sel 1/1 | count
3008
FP9300-A#
```

次の例では、文字列「error」を含むシステム イベント ログの行を表示する方法を示します。

```
FP9300-A# show sel 1/1 | include error
968 | 05/15/2016 16:46:25 | CIMC | System Event DDR4_P2_H2_EC
C #0x99 | Upper critical - going high | Asserted | Reading 20
000 >= Threshold 20000 error
FP9300-A#
```

関連項目

[show コマンド出力の保存 \(4 ページ\)](#)

show コマンド出力の保存

出力をテキスト ファイルにリダイレクトすると、**show** コマンドの出力を保存できます。

```
show command [> {ftp:|scp:|sftp:|tftp:|volatile:|workspace:}]| [>> {volatile:|workspace:}]
```

構文の説明

```
> {ftp:|scp:|sftp:|tftp:|volatile:|workspace:}
```

選択したトランスポート プロトコルを使用して指定されたテキストファイルに **show** コマンド出力をリダイレクトします。

コマンドを入力すると、リモート サーバ名、IP アドレス、ユーザ名、ファイルパスなどがクエリされます。

この時点で **Enter** を押すと、出力がローカルに保存されます。

```
>> {volatile:|workspace:}
```

show コマンド出力を適切なテキスト ファイルに追加します。このファイルはすでに存在する必要があります。

例

次の例では、現在の設定をシステムワークスペースに保存しようとしています。設定ファイルがすでに存在しており、上書きするかどうかを選択できます。

```
FP9300-A# show configuration > workspace
File already exists, overwrite (y/n)?[n]n
Reissue command with >> if you want to append to existing file
```

```
FP9300-A#
```

関連項目

[show コマンド出力のフィルタリング \(2 ページ\)](#)

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。